

総括・挨拶

京都大学理事 湊 長博



皆様、本日は朝10時から5時まで、非常に長丁場になりましたけれども、京都大学附置研究所・センターシンポジウムにお付き合いいただきまして誠にありがとうございます。いろいろ今、議論があったとおりでございますが、京都大学では、とにかく非常にいろんなことを、基盤長も言っておられたとおり、面白く楽しくというだけではなくて、必死にやっているということでもあります。

これも少し議論になりましたとおり、きょうは、京都大学の19もある研究所・センターのうちのごく一部の先生方のお話しでありましたけども、ほかにも数学であったり、物理であったり、いろんな領域で研究されています。

きょうは、たまたま少し実学的な話しがかなりあって、皆様の本当に日常生活の指針につながるような話が多かったようですけれども、京都大学というのは、皆様ご存じかどうか、現在指定国立大学という大学に指定されておりまして、いくつかの大きな目標を掲げております。そのうちの大きな目標の1つが、やはり社会貢献なんです。

我々は国立大学ですから、かなりの部分を国税によって担われており、私達はみんな研究の成果をどのようにして国民の皆様に戻元していくかということが、非常に大きなテーマだと思っております。これも今議論がありましたように、還元の仕方といっても実はいろいろな方法があって、例えば本当に災害のときに、正しい逃げ方はどうあるべきであるか、建物の問題はどうか、いろいろな病気をどう克服するかという現実的な研究もあるし、一方では、歴史や文化についての研究も広く行われております。

あるものは役に立つし、あるものは役に立たない、しばしば産業界では、そういう言い方がされますけれども、じゃあ国民の皆様にとって必要なものは何かというと、災害からうまく回避することや、病気にもうまく対処できるということだけでいいのかというと、それは当然必要なことだろうと思うんですが、本当に文化的な満足を得て、楽しい生活を皆さんが送れるという観点からいえば、他にもありとあらゆるところに、私達の研究が貢献できる局面はあるんだろうというふうに思っています。

そういう意味で、京都大学にはとりわけこういう多彩な研究領域の研究者が沢山いて、各々の領域で必死に頑張って研究活動をおこなっているということ、是非皆様に知っていただきたいと思っているわけです。きょうは14回目の研究所・センターシンポジウムになりますけれども、こういう気持ちで日本中の各地を毎年回っています。

今回、浜松でやらせていただいて、たくさんの皆様に来ていただいて本当にありがたい

と思っております。京都大学の多様な研究活動を日本中の方々に知っていただいて、さらに皆様のご意見もいただき、本当に大学が社会に貢献するというのはどういうことか、どのような貢献の仕方があるんだろうかということを考えながら、心を新たにして日々の研究生活に邁進したいというのが、研究所・センターの全ての教員の意味であり希望である、というふうに思っております。

また、いろんな研究活動についてはインターネットなどでも公開しておりますので、皆さんからいろんなご意見をいただければいただくほど、私達も、やる気が出て力も出ますので、ぜひ今後とも、いろんなご意見等々ございましたらば、遠慮なく私どものほうへお知らせいただければ、ありがたいと思っております。

きょうは本当に長時間にわたって、最後までご参加いただき、ありがとうございました。心から御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。